

ナイトドルフィンスイミング

バハマでのナイトドルフィンスイミングは通常、海底の見えない水深100mより深い海で行う。しかし、今年は2回ほどホワイトサンドリッジと呼ばれる水深5~6mの浅い海で停泊中にイルカたちがやってきて一緒に泳ぐことができた。海底の白砂がレフ版の役目をして、船上から照らすライトの光だけを頼りに撮影を行った。イルカたちの幻想的なシーンに感動する。夜中の2時頃まで泳ぎ続けていた。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
15mm fisyeve ストロボ非発光
1/6 F5.0 ISO 1600

今年6月~7月に訪れた、
バハマ・ドルフィンサイトの
イルカたちの写真で、
自分が気に入ったものを
10カットをセレクト。
毎年訪ねている
ドルフィンサイトの
イルカたちの様子が
伝えられれば幸いだ。

Bahamas Dolphin Site 2007

バハマ・ドルフィンサイト
越智隆治ベストセレクション2007

Photo by **Takaji Ochi**



風

スローシャッターで、イルカたちの泳ぐ勢いを表現してみた。まるで、絵のデッサンみたいな印象の写真で気に入っている。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX.5D
自然光 17mm~40mm 1/4 F20 ISO 100

バハマ・ドルフィンサイト
越智隆治ベストセレクション2007

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Bahamas
DolphinSite2007
Web-lue 2007. Autumn

Information Link  <http://takaji-ochi.com/> 



表情を撮る

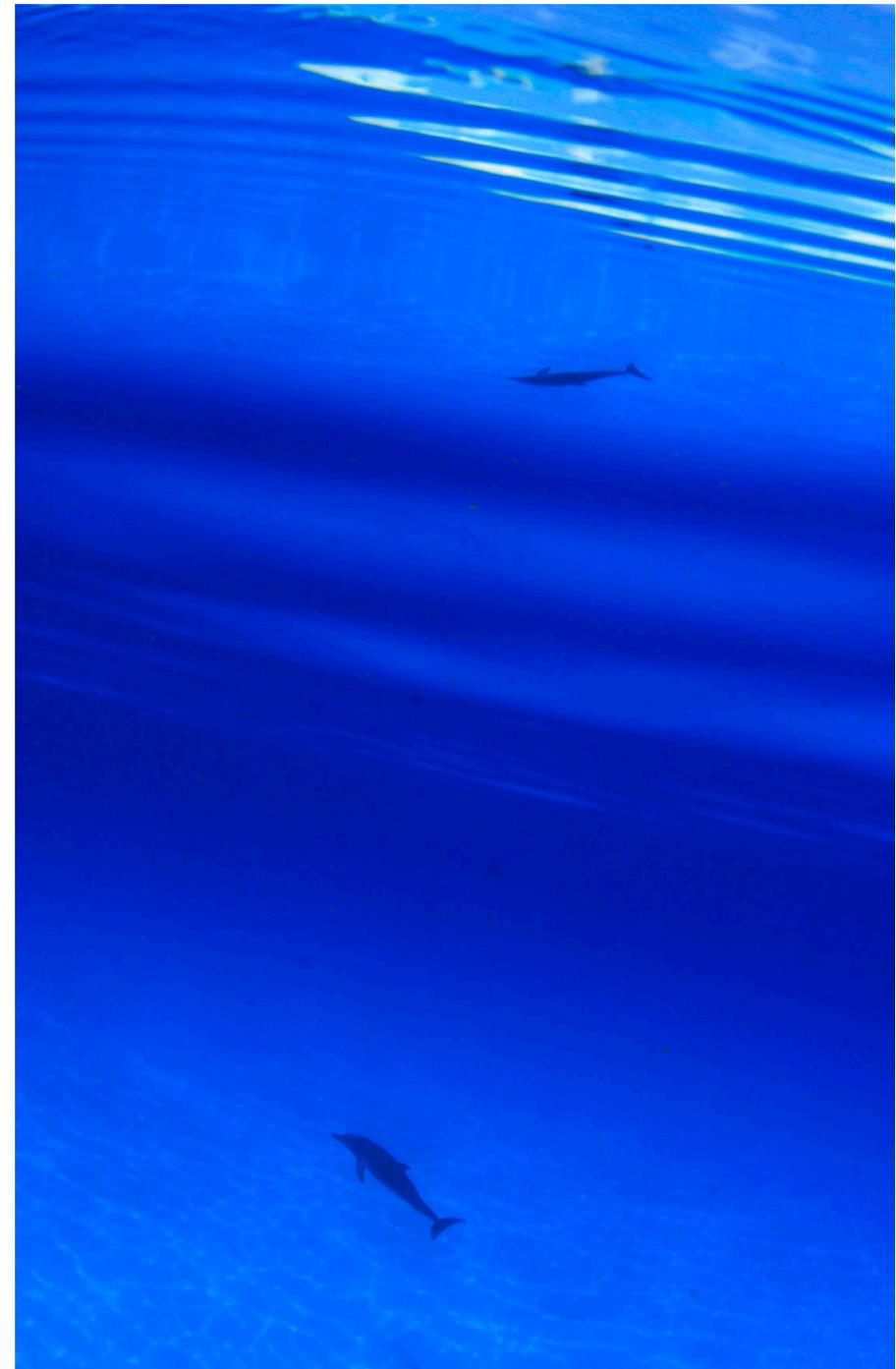
ベタ凧じゃない場合、イルカがゆっくり泳いでくれるときなどは、表情を中心に撮影する。イルカをゆっくり撮影したければ、こちらも無理に泳がず、ゆっくりしていることが望ましい。この写真は2008年の月刊ダイバーの表紙に使用された。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
自然光 1/250 F6.3 17mm~40mm ISO 100

リフレクション

船上でのベタ凧撮影を終えると、今度は水中でイルカと一緒に泳ぎながらの撮影。普段なら、イルカの表情や、全身をフレームいっぱい撮影することが多いのだが、こういうベタ凧状態のときには、距離を置いてこのベタ凧の海を表現するような撮影を行うことが多い。この写真も、無理にイルカを追わずに、水深5~6mの海底をゆっくり泳いでいるイルカとそのリフレクションが水面下に移りこむ位置を探して撮影した。周囲に邪魔なものが無いか気をつけながらの撮影。できれば他のダイバーとは距離を置いて撮影したい。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
自然光 1/200 F11 15mm fisheye ISO 200



千切れたテール

同じベタ風状態で、フィッシュアイを使用し、イルカの真下に潜り込み、上に向かってシャッターを切ると、空の青さと、雲が地球のような感じに表現される。その中にシルエットのイルカを写りこませると不思議な写真になるので、今年はこの撮影もかなり多く行った。普段はあまり潜っても良い写真が撮れないので、無理に深く潜ることはしないのだが、ベタ風のときは、このように様々な表現ができるので、深く潜ることもある。このときのイルカは、以前テールにフィッシングラインを巻きつけていて、その頃はもう長くは無いのではと思っていたのだが、今年も元気に姿を見せてくれた。今回は、このテールを強調する上でもシルエット撮影が効果的だったと思う。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
自然光 1/200 F20 15mm fisheye ISO 200



バハマ・ドルフィンサイト
越智隆治ベストセレクション2007

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Bahamas
Dolphin Site 2007
Web-lue 2007. Autumn

Information Link  <http://takaji-ochi.com/> 



ベタ風

ベタ風状態になると、まず海に入る前に、船の船首についたイルカたちを船上から撮影することも多い。今年はこのベタ風になる日が多く、このようなシーンを撮影する機会も多かった。とろけるような海水の中で船首についてゆったりと泳ぐイルカたち。ドルフィンサイトで一度は目にしてみたい瞬間だ。

Canon Eos 5D + 70mm~200mm
焦点距離100mm 自然光 1/250 F5.0
ISO 100 PLフィルター使用



行列

イルカが編隊を組むことは良くあるんだけど、このように一直線に連なるシーンは珍しい。年配のイルカたちが、最初は玉になって泳いでいたのだが、1頭が抜け出すと、ゆっくりとい列に長く重なり始めた。そのシーンはまるでスローモーションでも見ているかのようなゆっくりとした感じだった。どの位置から撮影しようかなやんだが、周囲に人や、別のイルカもいたので、ベストの位置として真上からの撮影を選択した。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
自然光 17mm~35mm 1/250 F8 ISO 200



モノクロイルカ

曇りの日や、透明度の悪いときなどは、モノクロで撮影することも多い。その方が被写体そのものを鮮明に表現できることもあるからだ。バハマアンブルーの海の青さが無くても、周囲が砂地で被写体自体が浮き上がる。この2頭はバンドウイルカ。タイセイヨウマダライルカと違って、首をぐいとまげて覗き込んでくるため、正面顔の撮影がしやすい。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
自然光 1/250 F5.0 17mm~40mm ISO 100

バハマ・ドルフィンサイト
越智隆治ベストセレクション2007

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Bahamas
DolphinSite2007
Web-lue 2007. Autumn

 Information Link <http://takaji-ochi.com/>  関連情報HPへ

Bahamas Dolphin Site 2007

バハマ・ドルフィンサイト
越智隆治ベストセレクション2007



バンドウイルカと タイセイヨウマダライルカの 擬似交尾

バハマでは、タイセイヨウマダライルカとバンドウイルカが一緒に行動しているシーンを良く目にする。このときも、1頭のバンドウが、数頭のマダラに混じって泳いでいた。生殖器を出して交尾を行っているようなシーンを目撃したのだが、両方とも明らかにオスだったので、擬似交尾ということになるのだけど、こういうシーンはよく目にする。彼らにとっては遊びの一環なのだろうか。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
自然光 1/250 F8 17mm~40mm ISO 100

捕食中

イルカたちは、海底の砂の中に身を隠す魚をソナーで探し当て、捕食する。この捕食シーンも頻繁に目撃することができるし、かなり撮影もしている。しかし、今回のこの写真は、捕食された魚の顔がモロに見えていて、「助けてー」と叫んでいるような、あるいは、イルカの顔にできてしまった腫瘍のような不思議な感じが気に入っている。美しいイルカのシルエットを撮影するのも好きだけど、こういう面白いシーンに遭遇できるのもまた楽しい。といっても捕食されてしまった魚にとってみれば、洒落にならないのだろうけど。

Canon Eos 5D+SEA & SEA DX-5D
自然光 1/250 F9 17mm~40mm ISO 200



バハマ・ドルフィンサイト
越智隆治ベストセレクション2007

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製・二次使用を禁じます

Bahamas
Dolphin Site 2007
Web-lue 2007. Autumn

 Information Link <http://takaji-ochi.com/>  関連情報HPへ